



外国人の避難所生活を改善する為には？

山形県立寒河江高等学校

1. 探究の動機

近年日本では外国人旅行者・移住者の増加しており、また地震や洪水などの大きな自然災害が起こることが予想されているため。

2. 仮説

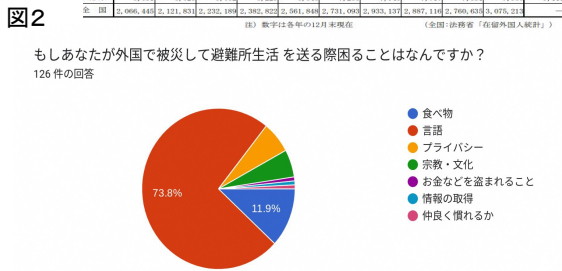
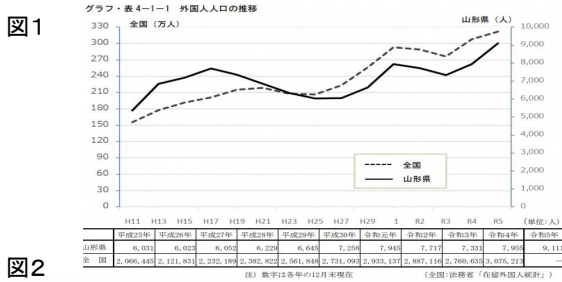
ユニバーサルデザイン(UD)を効果的に用いることで外国人の避難所生活を改善できるのではないかと。

3. 調査方法

- ①インターネット
- ②校内生徒へのアンケート
- ③寒河江市役所への現地調査

4. 調査結果

結果1(山形県における外国人人口の推移及び校内アンケートの結果)



結果2(寒河江市の外国人向け防災対策について)

防災セットが各避難所にあるが、外国人向けの多言語表記のものはない。

寒河江市のハザードマップも同様に 日本語表記のみとなっている。翻訳機の活用など対策を行っているが、それだけでは外国人に対し、迅速な対応ができるか不安である。

また、外国人の方の周りに日本人がいない場合の対策も必要であると考える。



結果3(寒河江市の外国人向け防災対策について)

寒河江市役所の方との話を通して、現在寒河江市では、避難所にピクトグラム等を用いた看板の設置と、多言語対応の無料で利用できる防災アプリの導入が進められている。

今まで避難所の場所は地域に住む人以外にはわかりにくくなっていたが、ピクトグラム等を用いた看板の設置によって、誰にとっても 一目で避難所がどこかわかるようになる。

防災アプリの機能として多言語表記だけでなく、GPSを通じて避難所までの経路の表示や、マナーモードであっても災害情報を通知できる等の機能のほか、外国人だけでなく高齢者にも理解しやすい単純でわかりやすいデザインで利用しやすくなっている。



5. 考察・結論

結果1からは海外で被災したときの避難所を想定して、困ることは言語による壁だと回答した人が7割以上で多いとわかった。

結果2の問題点には結果1と共通する部分があり、避難所に外国人向けの表記等の配慮が不足していると考えられる。しかし、この問題はピクトグラムや、やさしい日本語等を取り入れることで解決できるのではないかと考えられる。

結果3で述べたように寒河江市役所の方々とディスカッションを重ねた結果、外国人の方でもわかりやすいピクトグラムの導入や防災アプリの導入を進めるという段階までこぎつけることができた。

【参考文献】

- 山形県の国際化の現状山形県県庁ホームページ5月16日 https://www.pref.yamagata.jp/020040/bunkyo/kokusai/koryu/genjo_r3.html
- 防災コンシェル/西菱電機株式会社ホームページ12月5日 <https://www.solution.seiryodenki.co.jp/bousaiconcier/>